

平成 30 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 広島光明学園	代表者	碓井 法明	法人・ 事業所 の特徴	0歳から120歳までの福祉を担い、東区牛田地区・安佐北区深川に22事業所（認定こども園、認可保育園、介護事業所）を展開しています。三宝一如（利用者・子どもたち・地域、職員・家族、法人）を理念に、地域のための法人として地域福祉に貢献できるように日々活動しています。
事業所名	小規模多機能ホーム ラブリー光明	管理者	須之内 充		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	7人	1人	1人	1人	1人	人	人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者様だけではなくご家族との交流も積極的に行い、職員一人一人が信頼関係を構築しながら、迅速で適切な支援が行えるように努める。	・改善計画をたてても、職員の意識が向いておらず、また1年の中で法人内異動もある為、そもそも計画周知が難しかった	・前回の改善計画が職員に周知できていないのではないかと ・改善計画が日々の取り組みに繋がっていないので日常業務にどう落とし込んでいくか検討必要。	・改善目標を事務所などに掲示し、理念と共に常に意識できる環境にする。 ・毎月のミーティングで改善目標を振り返る取り組みを行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	事故防止の観点から、建物内外の修繕を随時行っていくとともに、プライバシーに対する観点からも臭いや音などへの配慮を引き続き行っていく。	・法人本部と相談しながら、修繕の検討している。 ・臭いについては外部の業者へ委託しつつ、きめ細やかな清掃を行った。	・事業所では、臭いなど特に気になる様子はない。建物は古いが、室内も掃除が出来ており、家具の色合いや飾りなど華美すぎず落ち着いた雰囲気である。	・イベントの開催や近所への周知を行い、自然と人が集うような環境づくり ・施設の玄関は開放性のあるようなものへ改修も検討する。 ・臭いについても今後は継続して消臭器を使用していく
C. 事業所と地域のかかわり	地域活動を職員全体で周知し、事業所全体で地域との関わりをもちながら、地域の方々と互いに支えあえる関係性を作れるように努める。	・町内幹事会などの参加や、回覧などの情報及び運営推進会議や日頃からの近所付き合いなど地域住民の一員として普段からの関係づくりを行った。	・牛田早稲田の地域をもっと職員が勉強する必要があるのでは。 ・職員さんに管理者さんやケアマネさんの地域での活動を周知する機会を持たれてはどうか。	・幹事会には毎回出席し、地域の課題など情報交換を行う。回覧を通じて地域の情報収集が出来るように努めており、今後はその情報を活かした繋がりづくりに取り組んでいく。 ・事業所周辺にお住まいの方も多くこれまで通り地域の行事にも参加できるようにする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	ネットワークの確保、活用を継続し、様々な方向への繋がりを意識しながらより多くの関係作りを行っていく。地域資源の活用という視点を持ち、事業所だけではなく	・地域との関係や、地域資源など毎年繋がりは増えて行っているが、管理者やケアマネ止まりなることも多く、各々の利用者様への支援にどこまで活かしているか	・利用者様の社会参加が出来るような取り組みを。利用者様の力を地域で発揮できるように色々考えてきてはいかかがか。	・これまでの支援の中で繋がりのできた企業や団体との関係を保ちながら、よりネットワークを広げて利用者の支援に役立てて行く。

	い、広がりを持った支援を行う。	は不透明。		<ul style="list-style-type: none"> ・現状の繋がりを持っているのは管理者であるため、これらの関係を事業所全員ができるよう日頃からのかかわりを職員が持てるようにしていく。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	様々な視点からの多種多様な意見を事業所運営に反映させていく為に、より多くの方々に参加して頂ける働きかけを積極的に行っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様と関わり合いのある方を中心に情報交換を行ったり、地域の店舗や業者など、宣伝活動を通じて地域とのネットワークづくりに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業報告については写真を使ったり、地域住民に実態がわかるような工夫がされている。その他、介護や地域に関わる議題の提供もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、民生委員の方だけでなく、配食弁当、飲料販売店など様々な方々をお呼びして会議が行えている。様々な方に会議に参加していただけるよう呼びかけを続けていく。 ・事業所だけでなく、地域の方々の興味のある内容を考え、介護だけにとどまらない会議の在り方を考えてみる。
F. 事業所の防災・災害対策	自施設での避難訓練だけではなく、地区防災活動にも積極的に参加しながら、防災、災害への意識を事業所全体で高めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨今の自然災害の増加を受けて、避難訓練の回数を増やすなど取り組みを行った。異動などがあったとしても頻繁に行うことで常に避難誘導が意識できるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に1度は運営推進会議で避難訓練を実施しており、消防職員も含めて様々な意見交換もされていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き現状の避難訓練は維持しながら、回数を増やしていきたい。 ・夜勤職員を中心に、避難行動が体に染みつくよう訓練を重ねる。